

まちの ほっと ニュース

TOWADA
My Town Topics

このコーナーは市内のさまざまな出来事を紹介するコーナーです。

「安全で、安心して生活できる、住み良いまちづくり」をスローガンに 市素人防犯演芸大会開催

12月27日、市民文化センターで十和田市防犯協会主催の第48回素人防犯演芸大会が開催されました。本会は「安全で、安心して生活できる、住み良いまちづくり」のため、市民相互の連携を深め、青少年の健全育成に努めるものです。

舞台では歌謡、民謡、舞踊などの個人・団体が日ごろの練習の成果を存分に発揮し、会場をわかせていました。



日ごろの練習の成果を舞台上で発揮

おもてなしの心で迎えます

新春呈茶 ラブラブ茶会

1月3日、現代美術館で新年の初開館日に合わせて、佐々木宗久社中による呈茶会が行われました。休憩スペースを会場に約200人の来館者に抹茶とお菓子を振る舞いました。



家族連れでにぎわいました

一本木沢ビオトープ協議会主催

冬のバードウォッチング

1月9日、一本木沢ビオトープで冬のバードウォッチング講座が開催されました。東公民館からビオトープまでの散歩道、木々に止まるアカゲラやシジュウカラなど8種類の野鳥を観察しました。

来年度は4月と11月に開催予定で、参加者はぜひ参加したいと話していました。



双眼鏡で野鳥を観察する参加者

ごぼうやんにくなど地場産野菜を競り 十和田市の卸売市場で初競り

1月5日、市地方卸売市場で2010年の初競りが行われました。競り人が「はい、なんぼ」という掛け声とともに、買受人たちがごぼうやんにくなどの地場産野菜を次々と競り落とし、市場は大きな活気にあふれていました。



ごぼうを競る買受人たち

ハンダごてを使い、ラジオ製作 親子でラジオを作ろう

1月10日、中央公民館で親子12組が参加してファミリー電波教室が開催されました。ラジオの組み立てキットのパーツをハンダごてを使いながら、取り付けていました。自分たちで製作したラジオで好みの放送を聞きながら、電波のしぐみに興味を寄せていました。



初めて使うハンダごてに悪戦苦闘

多くの購買人でにぎわった子牛の初競り会場

県家畜市場で子牛の初競りが行われました

1月8日、県家畜市場（七戸町）で、2010年の子牛初競りが開催され、県内産の子牛を購買人が競り落としました。

初競りには、本市の肥育農家や畜産関係者の多数が参加。生後1年未満の黒毛和種や日本短角種など合わせて569頭が上場され、昨年4月に死亡した県基幹種雄牛「第1花園」系統の子牛が半数以上を占めました。

初競りに先立ち開かれた開会式では、関係者が景気づくりにべこもちでもちまきを行い、市場の活況を祈りました。



「第1花園」の子牛が多く競りにかけられた県畜産市場

ロボット改良の意欲や科学的思考力・関心を高めるために実施

南公民館 ロボット競技会開催

1月10日、南公民館で十和田市青少年少女発明クラブロボット競技会が開催されました。

この競技会は、十和田市青少年少女発明クラブが主催し、毎年行われるもので、約60人の小・中学生が参加。

競技は、ロボ相撲、トリケラトプスロボット競走、ロボ・エッグⅡの3種目に分かれて、改良やさまざまな工夫を凝らして設計した自作のロボットで技を競い合いました。

ロボ・エッグⅡでは、卵形のボールを使い、敵陣へのトライ合戦を行いました。クラブ員は、日ごろの練習の成果を存分に発揮していました。



熱戦が繰り広げられたロボット競技会のようす

「出会い」をテーマに、2月14日まで開催

現代美術館と県立美術館の共同企画展ラブラブショー

現代美術館の企画展示室では、漫画家のロビン西と立体造形作家のKIMURAによる「漫×技」、鳥瞰図絵師の吉田初三郎と美術家の秋山さやかによる「地図と移動をめぐる表現」の2組の作品が展示されています。

本企画展開期中は、県立美術館と同時開催で、両館をつなぐ無料シャトルバスが運行され、市内外から多くのかたが訪れ、にぎわいを見せています。



企画展示室の空間をキャンバスに見立てた作品を鑑賞する来館者